

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2004年11月25日

出願番号
Application Number: 特願2004-340130

パリ条約による外国への出願に用いる優先権の主張の基礎となる出願の国コードと出願番号
The country code and number of your priority application, to be used for filing abroad under the Paris Convention, is

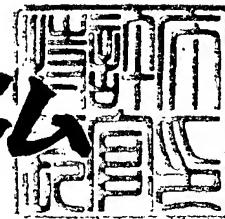
願人
Applicant(s): 新日本製鐵株式会社

J P 2004-340130

2009年8月11日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

細野哲弘



【書類名】 特許願
【整理番号】 P2004-113
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 E04B 1/00
E04B 2/00
【発明者】
【住所又は居所】 東京都千代田区大手町2-6-3 新日本製鐵株式会社内
【氏名】 河合 良道
【発明者】
【住所又は居所】 東京都千代田区大手町2-6-3 新日本製鐵株式会社内
【氏名】 藤橋 一紀
【発明者】
【住所又は居所】 東京都千代田区大手町2-6-3 新日本製鐵株式会社内
【氏名】 藤内 繁明
【発明者】
【住所又は居所】 富津市新富20-1 新日本製鐵株式会社 技術開発本部内
【氏名】 田中 浩史
【特許出願人】
【識別番号】 000006655
【氏名又は名称】 新日本製鐵株式会社
【代理人】
【識別番号】 100107250
【弁理士】
【氏名又は名称】 林 信之
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 048301
【納付金額】 16,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 特許請求の範囲 1
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 0106506

【書類名】特許請求の範囲**【請求項1】**

薄板軽量溝形鋼を矩形に組んだフレームに面材を張設して壁パネルを構成し、この壁パネルを矩形の4辺に沿って配設して各階壁を構成し、前記壁パネルと、床根太に床板を載置してなる床パネルとを組み立てて複数階の構造躯体を構築するスチールハウスにおいて、前記床パネルの側端部を下階壁パネルにおける内壁側の上端に接続させ、かつ、前記4辺に配設される壁パネルのうち、少なくとも対向する2辺の上下階壁パネルの端縁同士を突き合わせて接合したことを特徴とするスチールハウスのパネル構造。

【請求項2】

請求項1の記載において、対向する2辺の下階壁パネルの上端縁を、対向する他の2辺の下階壁パネルの上端縁よりも一段低く設け、対向する一段低い側の2辺の下階壁パネルの上端縁に前記床パネルの両端部を乗せて支持すると共に、該床パネルの上面を上階側の対向する2辺の壁パネルの下端縁で押さえ、床パネルの両側部を、対向する一段高い側の2辺の下階壁パネルにおける内壁側の上端に接続させ、対向する一段高い側の2辺の下階壁パネルと上階側の対向する2辺の壁パネルの端縁を突き合わせて接続したことを特徴とするスチールハウスのパネル構造。

【請求項3】

対向する2辺に位置する上下階の壁パネルの端縁を突き合わせて接続する手段として、剛性を有する接続金物を用い、該接続金物の上下部を上下階の壁パネルにおける壁フレームにファスナーで固着することを特徴とする請求項1または2に記載のスチールハウスのパネル構造。

【請求項4】

前記接続金物は所定長の管状鋼材の両端を扁平にして構成し、該管状鋼材が上下階の壁パネルにおける薄板軽量溝形鋼製の上下フレームのウェブに開設の開口を挿通して設けられ、上下の扁平部を壁側部フレームのウェブに当たがってファスナーで固着されていることを特徴とする請求項3記載のスチールハウスのパネル構造。

【請求項5】

請求項1～4の何れか1項に記載のパネル構造の構築方法であって、壁パネルを矩形の4辺に沿って配設し下階壁を構成したのち、床パネルの少なくとも対向する2辺を下階の壁パネルにおける内側の上端に接続し、その後、下階の壁パネルによって上階の床パネルを支持し、その後上階の壁パネルの下端を下階の壁パネルの上端に接続して上階壁を構築することを特徴とするスチールハウスのパネル構築方法。

【請求項6】

請求項5に記載のパネル構造の構築方法であって、下階壁パネルにおける対向する2辺の上端縁よりも一段低い他の2辺に配置される壁パネル上端縁に乗せて床パネルの両端部を支持すると共に、その床パネルの両側を下階壁パネルにおける内壁側の上端に接続し、その後、対向する2辺の上階壁パネルの下端を下階壁パネルの上端に接続すると共に、対向する他の2辺の上階壁パネルの下端で床パネルの両端部の上面を押さえることを特徴とするスチールハウスのパネル構築方法。

【請求項7】

請求項5または6において、請求項3または4に記載の接続金物による接続手段を用いて上下階の壁パネルを接続することを特徴とするスチールハウスのパネル構築方法。

【書類名】明細書

【発明の名称】スチールハウスのパネル構造およびパネル構築方法

【技術分野】

【0001】

本発明は、スチールハウスのパネル構造およびパネル構築方法に関するものである。

【背景技術】

【0002】

スチールハウスは普通、板厚0.4mm以上、2.3mm未満の薄板軽量形鋼による枠材と、この枠材に構造用面材を組み合わせて構成される鉄鋼系パネル構造の建物と定義される。このスチールハウスで2、3階など比較的低い複数階の建物を構築するとき、従来は、最初に1階の床を完成させた後、その上に1層分の壁パネルを乗せ、1階部分が完成した後に上階の床パネルを1階壁パネルの上に乗せるといった、各階ごとに完成させていくプラットフォーム構法（いわゆる枠組壁構法）で施工されることが多い。このプラットフォーム構法には、重機・足場等が不要といった利点がある。

【0003】

他方、このプラットフォーム構法では、上下階壁パネルの一体化はホールダウン金物（HD金物と略称することがある）と長尺ボルトによって行われていると共に、上下階の壁パネル間には、床パネルの根太端部が挿入されていて、この根太に加わる圧縮力を受けるために必ず圧縮力伝達用の補強金物が設置されており、これらホールダウン金物や補強金物が必要であるため、構造が複雑化するといった問題がある。

【0004】

プラットフォーム構法による現在のスチールハウス設計法を図6に示す模式図によって説明する。図6に示すように、プラットフォーム構法では、最初に1階の床（図示せず）を完成させた後、その上に1層分の壁パネル1を乗せて1階壁2を構築し、1階壁2が完成した後に、上階の床パネル3を乗せ、この床パネル3の上に1層分の壁パネル1を乗せて2階壁4を構築する。壁パネル1はたて枠と上下のよこ枠を矩形に組んでなる壁フレームに構造用の面材を貼り付けて構成される。また、床パネル3は、側根太と端根太に床板を貼り付けて構成される。

【0005】

前記のようにして構築されるプラットフォーム構法によるスチールハウスにおいて、上下階の壁2、4はホールダウン金物5その他の接合金物によって床3aを介して接合される。この接合構造の例は、特開平10-311110号（特許文献1）に開示されておりこれを図7に示す。

【0006】

図7において、上下各階の壁パネル1は、それぞれ薄板軽量構形鋼からなるたて枠10と上枠11と下枠12を矩形に組み立ててなる壁フレームに構造用面材（以下面材という）13を貼り付けて構成される。さらに、図7に示すように壁パネル1の上部においては、上階のたて枠10と下階のたて枠10はホールダウン金物5を介して固定されている。

【0007】

また、薄板軽量構形鋼からなる側根太15と端根太16に床板17を載置してなる床パネル3が、上下階を画するように下階の壁パネル1の上端と上階の壁パネル1の下端との間に配置される。この床パネル3に接合金物8が配設される。接合金物8は、筒体状に形成されたボルト挿通部6の上下端部にそれぞれフランジ7が水平に固着されており、上下フランジ7にボルト挿通孔7aが開設された構成であり、接合金物8のボルト挿通部6を挿通したボルト14を上下階の壁パネル1に設けたホールダウン金物5に連結することで、上下の壁パネル1が緊結される。前記において接合金物8は、根太15、16の上下端に当接するように立設され、ボルト14は下階のホールダウン金物5から接合金物8のボルト挿通部6を挿通し、さらに床板17および上階の壁フレームの下枠12を貫通し、上階のホールダウン金物5においてナット18により緊結固定するもので、ボルト14の下端も同様にナット18により下階のホールダウン金物5に緊結固定され、こうしてホール

ダウン金物5により、床パネル3を介して上下階の壁パネル1が接合される。

【0008】

前記のプラットフォーム構法では、壁パネル1と床パネル3の接合、上下階壁パネル1、1の接合にホールダウン金物5や接合金物8等の補強金物が必要となるため、複雑なディテールとなり、それが現場施工を難しくする原因の1つとなっている。また、ピース数の増大、ディテールの複雑さから現場にて補強金物を省略された場合、危険な構造になる。さらに、従来のプラットフォーム構法では、荷重の伝達経路が複雑、設計煩雑化の原因にもなる。

【0009】

他方、ホールダウン金物が必要なプラットフォーム構法を改良する1つの方法として、壁面躯体を構成する複数本の縦枠スタッフを全て上下階連続するように伸長して設け、この縦枠スタッフに側方から床パネルを固着すると共に、縦枠スタッフに壁面パネルの面材を取付ける方法が、特開平11-140975（特許文献2）によって開示されている。

【0010】

しかし、特許文献2に開示の技術では、プラットフォーム構法の場合に可能な簡易な施工法、つまり、矩形に組み立てた壁フレームに構造用面材を予め張ってユニット化した壁パネルを各階毎に取付け各階を順に構築する施工手順を実施できず、上階まで伸びる縦枠スタッフを全て組んだ後に、現場で壁パネルの面材を張る必要があり、現場施工の手間を増大させるという問題がある。

【特許文献1】特開平10-311110号公報

【特許文献2】特開平11-140975号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0011】

本発明は、スチールハウスの躯体構造において、第1に、従来のプラットフォーム構法の欠点である、ホールダウン金物や補強金物を用いることに起因する構造の複雑化の問題を解決すると同時に、該構法のメリット、つまり各階ごとに壁を完成させていくことにより重機・足場等が不要となるというメリットを生かす構造とした。第2に、ホールダウン金物等が不要で、それ故に構造物を簡略化できる特開平11-140975号公報の他の欠点を改良した。すなわち、前記従来例では、上階まで伸びる縦枠スタッフを構築した後に、構造用面材（壁材）を現場で取付けることにより現場施工の手間が増大するという欠点があるが、本発明ではこの現場作業を低減できるようにしたものである。

【課題を解決するための手段】

【0012】

前記の目的を達成するため、本発明は、次のように構成する。

【0013】

第1の発明は、薄板軽量溝形鋼を矩形に組んだフレームに面材を張設して壁パネルを構成し、この壁パネルを矩形の4辺に沿って配設して各階壁を構成し、前記壁パネルと、床根太に床板を載置してなる床パネルとを組み立てて複数階の構造躯体を構築するスチールハウスにおいて、前記床パネルの側端部を下階壁パネルにおける内壁側の上端に接続させ、かつ、前記4辺に配設される壁パネルのうち、少なくとも対向する2辺の上下階壁パネルの端縁同士を突き合わせて接合したことを特徴とする。

【0014】

第2の発明は、第1発明において、請求項1の記載において、対向する2辺の下階壁パネルの上端縁を、対向する他の2辺の下階壁パネルの上端縁よりも一段低く設け、対向する一段低い側の2辺の下階壁パネルの上端縁に前記床パネルの両端部を乗せて支持すると共に、該床パネルの上面を上階側の対向する2辺の壁パネルの下端縁で押さえ、床パネルの両側部を、対向する一段高い側の2辺の下階壁パネルにおける内壁側の上端に接続させ、対向する一段高い側の2辺の下階壁パネルと上階側の対向する2辺の壁パネルの端縁を突き合わせて接続したことを特徴とする。

【0015】

第3の発明は、第1または第2の発明において、対向する2辺に位置する上下階の壁パネルの端縁を突き合わせて接続する手段として、剛性を有する接続金物を用い、該接続金物の上下部を上下階の壁パネルにおける壁フレームにファスナーで固着することを特徴とする。

【0016】

第4の発明は、第3の発明において、前記接続金物は所定長の管状鋼材の両端を扁平にして構成し、該管状鋼材が上下階の壁パネルにおける薄板軽量溝形鋼製の上下フレームのウエブに開設の開口を挿通して設けられ、上下の扁平部を壁側部フレームのウエブに当たがってファスナーで固着されていることを特徴とする。

【0017】

第5の発明は、第1～第4の発明におけるパネル構造の構築方法であって、壁パネルを矩形の4辺に沿って配設し下階壁を構成したのち、床パネルの少なくとも対向する2辺を下階の壁パネルにおける内側の上端に接続し、その後、下階の壁パネルによって上階の床パネルを支持し、その後上階の壁パネルの下端を下階の壁パネルの上端に接続して上階壁を構築することを特徴とする。

【0018】

第6の発明は、第5の発明におけるパネル構造の構築方法であって、下階壁パネルにおける対向する2辺の上端縁よりも一段低い他の2辺に配置される壁パネル上端縁に乗せて床パネルの両端部を支持すると共に、その床パネルの両側を下階壁パネルにおける内壁側の上端に接続し、その後、対向する2辺の上階壁パネルの下端を下階壁パネルの上端に接続すると共に、対向する他の2辺の上階壁パネルの下端で床パネルの両端部の上面を押さえることを特徴とする。

【0019】

第7の発明は、第5または第6の発明において、第3または第4の発明に記載の接続金物による接続手段を用いて上下階の壁パネルを接続することを特徴とする。

【発明の効果】**【0020】**

本発明によると、(1)スチールハウスにおいて、上下階の壁パネルを直接連結することで躯体構造のディテールを簡素化できると共に、ホールダウン金物などの複雑な補強金物が不要となり、現場負荷減、設計も簡素化が図れ、施工性が向上する。(2)また、壁パネルと床パネルとの接続において、内壁面材のみを従来同様の床パネルを介した連結とすることで、プラットフォーム構法と同様の構法、つまり、ユニット化した壁パネルを用いて各階ごとに構築する構法を実施できるので重機・足場等が不要となるというメリットを維持して躯体構造を構築できる。

【発明を実施するための最良の形態】**【0021】**

以下、本発明に実施形態を図を参照して説明する。

【0022】

図1は、本発明の実施形態に係るスチールハウスの構造躯体を示す模式図、図2(a)、(b)は、図1のA部とB部の詳細図、図3(a)、(b)は、壁パネルの斜視図と縦断面である。図4は上下階の壁パネルの接続構造の詳細図で、図(a)は図(b)のD-D断面図、図(b)は上下階の壁パネルの接続構造の側面図、(c)は(d)のE-E断面図、(d)は上下階の壁パネルの接続構造の正面図である。図5は接続金物を示す図で、(a)は正面図、(b)は側面図、図5(c)におけるc-1、c-2は、接続金物の材料である鋼管の上下端部を扁平に圧縮する工程を示す工程図である。

【0023】

図1と図2の模式図によって本発明の概要を説明する。本発明に係るスチールハウスのパネル構造では、従来のプラットフォーム構法と工程が一部似ており、最初に1階の床(

図示せず) を完成させた後、その上に矩形の4辺に沿って1層分の壁パネル21を乗せて1階壁21aを完成する。このとき矩形の4辺に配設される1階の壁パネル21のうち、対向する2辺の壁パネル21bの上端縁を、対向する他の2辺の下階壁パネル21aの上端縁よりも一段低く設け、図1、図2(a)に示すように、この一段低い2辺に配置される壁パネル21bの上端縁に床パネル24の両端部を乗せて支持することで床25を構成する。また、床パネル24は、薄板軽量構形鋼からなる床根太(側根太と端根太)31の上面に床板32を取付けて構成されており、この床パネル24の両側部を図2bに示すように、1階壁パネル21における対向する他の2辺の壁パネル21aの内壁側(面材)26の上端に支持させて接続する。なお、図1では1階壁22と2階壁23に出入り用の開口部27とその上部のまぐさ配置用壁パネル28を有している。床パネル24の支持構造は、次に述べる上下階の壁パネル21の接続構造と共に本発明の主要な構成要素の1つである。

【0024】

前記のように下階の壁パネル21(21a、21b)によって1階壁22を構築し、1階壁22によって上階の床パネル24を支持した後、1階と同様の施工手順で2階23を構築するが、このとき1階壁22の対向する2辺の壁パネル21aの上端縁29と、同じく2階壁23の対向する2辺の壁パネル21aの下端縁30を突き合わせて接続するもので、この点が発明の主要な構成要素の1つである。2階壁24においても1階壁22と同様に対向する2辺の壁パネル21bの上端縁が、対向する他の2辺の壁パネル21bの上端縁よりも一段低く設けられており、この一段低い2辺に配置される壁パネル21bの上端縁に上階の天井パネル(図示せず)の両端部を乗せて支持すると共に、天井パネルの両側部は、1階壁22と同様に対向する2辺の2階壁パネル21aにおける内壁側(面材)26の上端26aで支持させて接続する。

【0025】

1階、2階に配置される壁パネル21(21a、21b)の下端は、4辺とも同レベルに設けられている。したがって、上下階の対向する2辺の壁パネル21aの上下端縁29、30を突き合わせ接続したとき、図2(a)のように、上階の壁パネル21における対向する2辺の壁パネル21bの下端縁30が、床パネル24の両端縁の上面を押える。また、図2(b)のように、床パネル24の両側縁の上面を上階の対向する2辺の壁パネル21aの内壁側26の下端縁26bが押える。こうして床パネル24の4辺の上下端縁は上下階の壁パネル21によって容易かつ確実に固定されて躯体構造が出来上がる。

【0026】

本発明によると、上下階の対向する2辺の壁パネル21aの上下端縁29、30を突き合わせると共に、下階の壁パネル21bの上端縁によって床パネル24を支持させるので、各階毎に壁パネルを含む構造躯体を構築でき、したがって、重機や足場などが不要にできるというプラットフォーム構法と同様の利点を有している。しかも、上下階の対向する2辺の壁パネル21aは、それぞれの上下端縁29、30を突き合わせて直接に接続するから、床パネルを上下階の壁パネルの間に介在させ、この床パネルを介して上下階の壁パネルを接合する従来のプラットフォーム構法の場合のようなホールダウン金物や補強金物を必要とせず、それゆえに、構造躯体のディテールを簡略化できる点で従来のプラットフォーム構法の欠点を解決している。なお、図示例では床パネル24の両端縁を、対向する下階の壁パネル21bの上端縁に乗せて支持させているが、床パネル24の両端縁をその他の支持手段で支持することも可能である。

【0027】

図3～図5によって壁パネル21の具体的な構造と、上下階の壁パネル21a及び床パネル24の具体的な支持構造と、上下階の壁パネル21aの上下端縁20、30を突き合せて直接に接続するための具体的接合手段を説明する。

【0028】

図3に示すように、壁パネル21は、薄板軽量構形鋼からなるたて枠33と上枠34と下枠35を矩形に組み立てた壁フレーム36の両側面に内壁面材26と外壁面材37をフ

アスナー38で取付けて構成される。このようにユニット化された壁パネル21が図1に示すように矩形の4辺に立設されて各階壁が構成される。

【0029】

また、床パネル24の両端は、その床根太31の端部が、図2(a)に示すように下階(1階)における対向する2辺の壁パネル21bのたて枠33の上端に取付けた上枠34と内外の面材26、37に乗って支持されている。床板32の上面は上階(2階)における壁パネル21のたて枠33の下端に取付けた下枠35と内壁側26の下端によって押えられている。また、図2(b)に示すように、下階(1階)の対向する2辺の壁パネル21aの内側に床パネル23の床根太31の端部が支持されている。また床板32の上面は上階(2階)における壁パネル21aの内壁面材26の下端縁によって押えられている。

【0030】

上下階の壁パネル21aの上下端縁29、30同士を突き合わせて接続することにより、下階の壁パネル21の上端で直接、上階の壁パネル21を支持させることができる。この突き合せによる上下階の接続を確実にするために図2(b)に示す任意構造の接続金物38を用いる。この接続金物38は簡易な構成であって構わないもので、この接続金物38の具体例を図4、図5によって説明する。

【0031】

図4、5に示す接続金物38は、所定長の管状鋼材の両端を扁平に圧縮にして管状部38aと扁平部38bを有した構成とされる。この接続金物38を上下階の壁パネル21における薄板軽量構形鋼製の上下枠34、35のウエブ40に開設の開口41を挿通して配設し、接続金物38の上下の扁平部38bを、2つの薄板軽量構形鋼のウエブ42を接合して構成される両側部のたて枠33の前記ウエブ42に当たがってファスナー43で固着することにより、上下階における壁パネル21の上下端の突き合せ部の接続が確実になされる。なお、接続金物は前記の構成に限らない。例えば、所定板厚の鋼板を短冊状に切断したものもファスナーでたて枠に固定してもよい。

【0032】

本発明によると、(1)上下階の壁パネル21を直接連結することで構造躯体のディテールを簡素化でき、補強金物が不要となり現場負荷減、設計も簡素化が図れる。また、(2)壁パネル21の内側に床パネル24を連結することで、プラットフォーム構法の長所を維持したまま、前記(1)の改善が図られたものである。

【図面の簡単な説明】

【0033】

【図1】本発明の実施形態に係るスチールハウスの構造躯体を示す模式図である。

【図2】(a)、(b)は、図1のA部とB部の詳細図である。

【図3】(a)、(b)は、壁パネルの斜視図と縦断面である。

【図4】上下階の壁パネルの接続構造の詳細図で、図(a)は図(b)のD-D断面図、図(b)は上下階の壁パネルの接続構造の側面図、(c)は(d)のE-E断面図、(d)は上下階の壁パネルの接続構造の正面図である。

【図5】接続金物を示す図で、(a)は正面図、(b)は側面図、図(c)におけるc-1、c-2は、接続金物の材料である鋼管の上下端部を扁平に圧縮する工程を示す工程図である。

【図6】(a)は、スチールハウスにおける従来のプラットフォーム構法の設計法を示す模式図、(b)は、同図(a)のC部の詳細図である。

【図7】(a)は、従来のプラットフォーム構法における上下階の接続構造を示す側面説明図、(b)は、接続金物の分解斜視図である。

【符号の説明】

【0034】

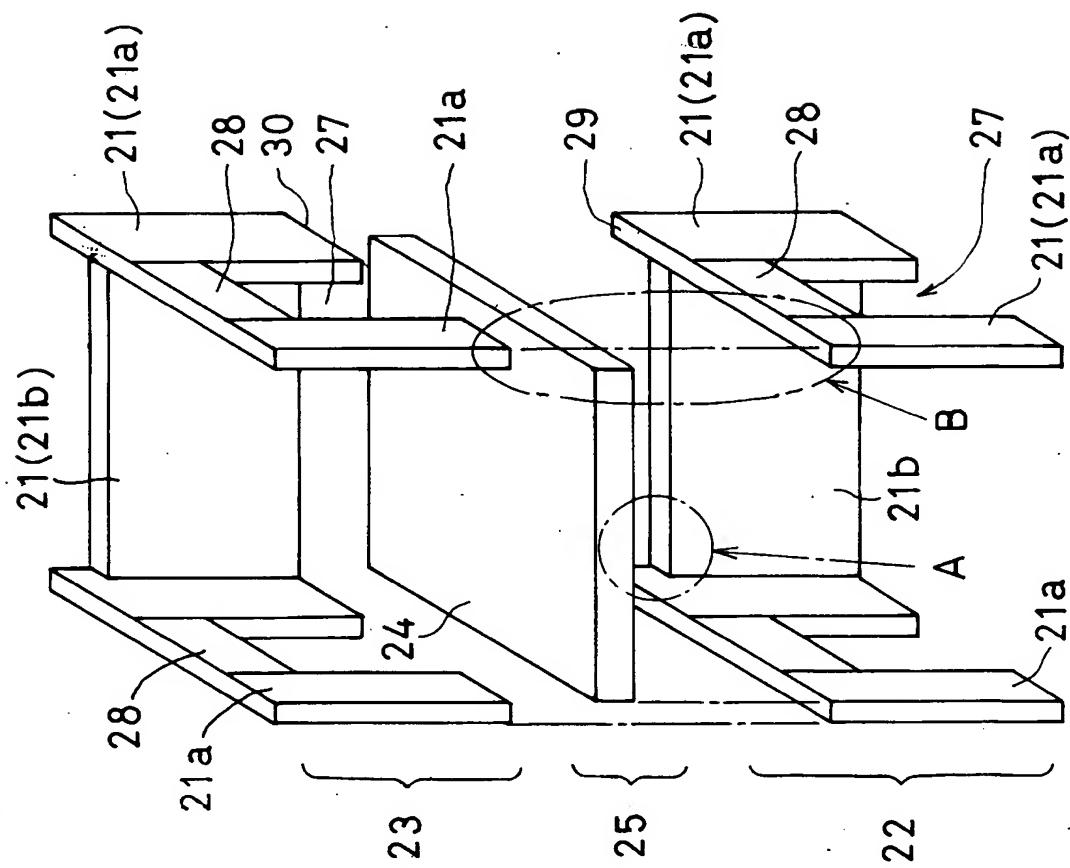
1 壁パネル

2 1階壁

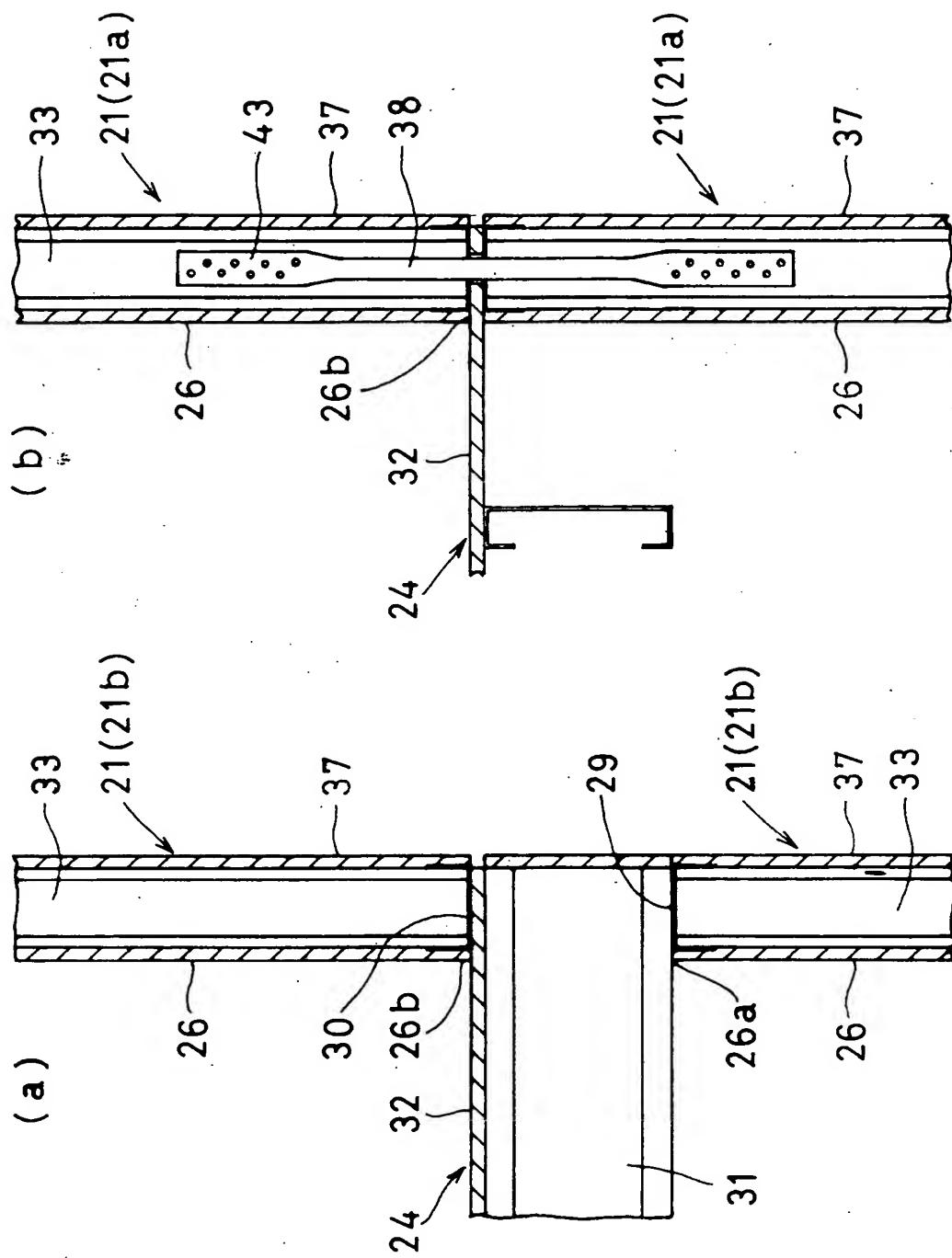
3 床パネル

- 3 a 床
- 4 2 階壁
- 5 ホールダウン金物
- 6 ボルト挿通部
- 7 フランジ
- 7 a ボルト挿通孔
- 8 接合金物
- 10 たて枠
- 11 上枠
- 12 下枠
- 13 面材
- 14 ボルト
- 15 側根太
- 16 端根太
- 17 床板
- 18 ナット
- 21 壁パネル
- 21 a 壁パネル
- 21 b 壁パネル
- 22 1階壁
- 23 2階壁
- 24 床パネル
- 25 床
- 26 内壁側
- 26 a 面材の上端縁
- 27 開口部
- 28 まぐさ配置用の壁パネル
- 29 上端縁
- 30 下端縁
- 31 床根太
- 32 床板
- 33 たて枠
- 34 上枠
- 35 下枠
- 36 壁フレーム
- 37 外壁用の面材
- 38 接続金物
- 40 ウエブ
- 41 開口
- 42 ウエブ
- 43 ファスナー

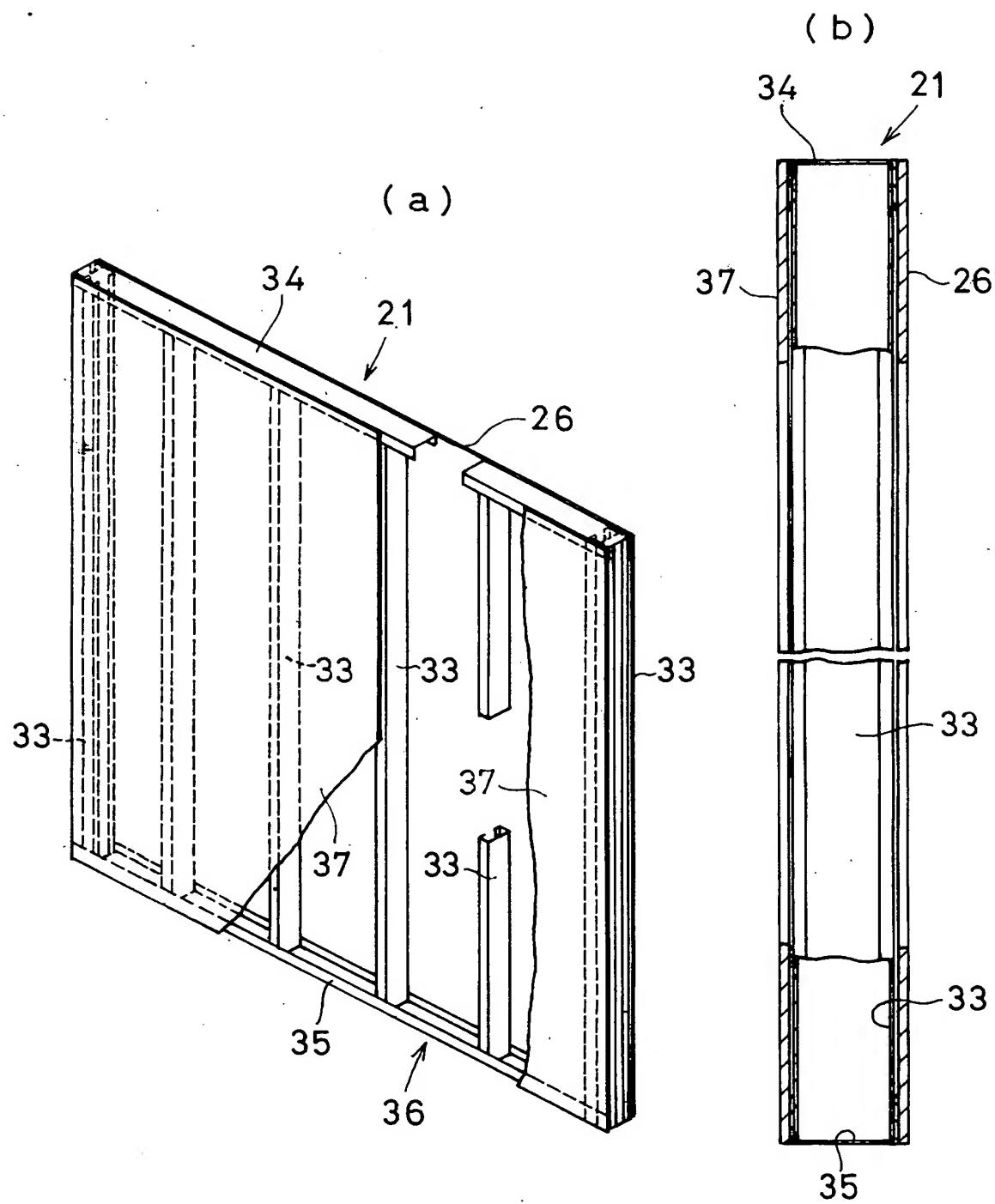
【書類名】 図面
【図1】



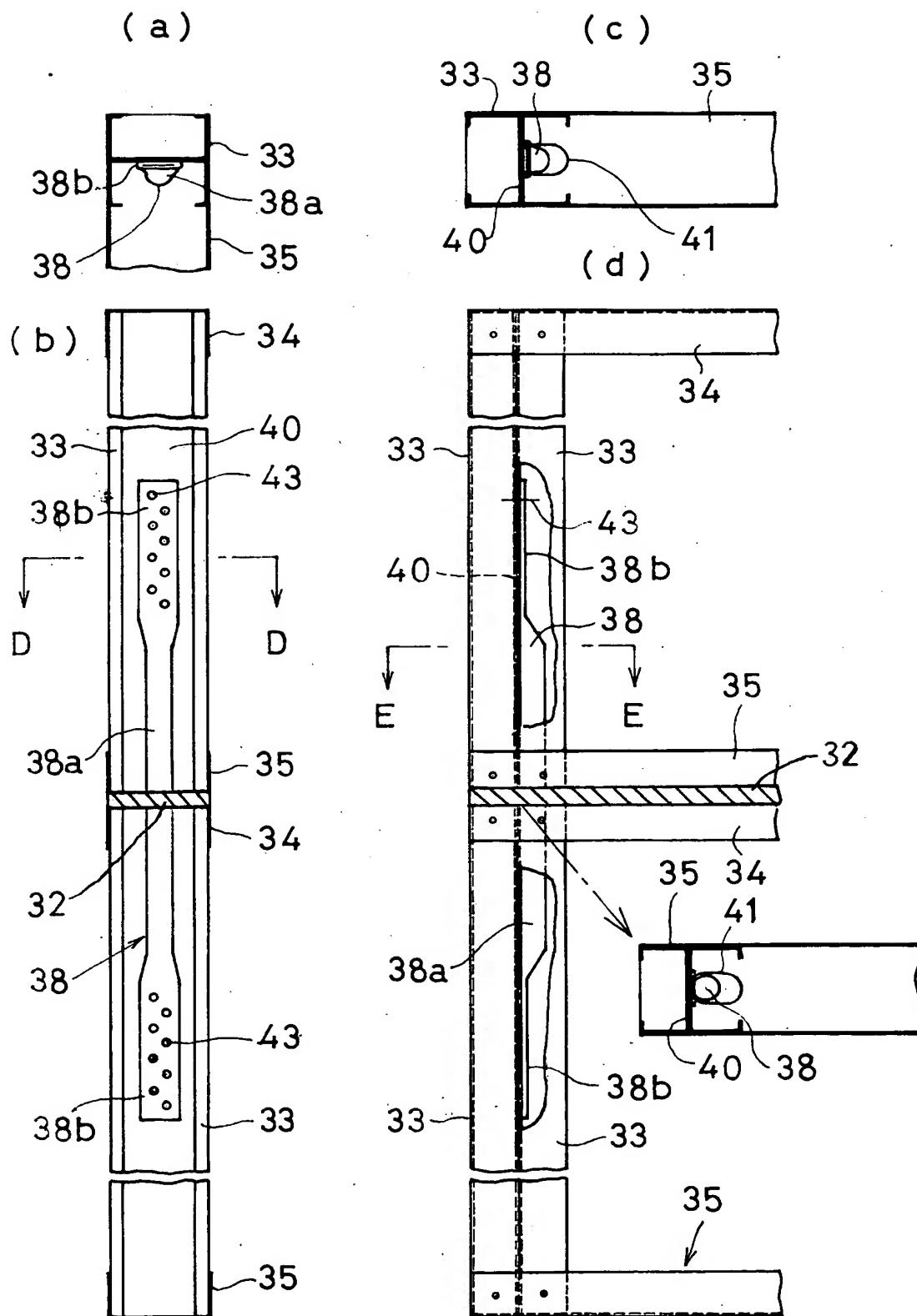
【図2】



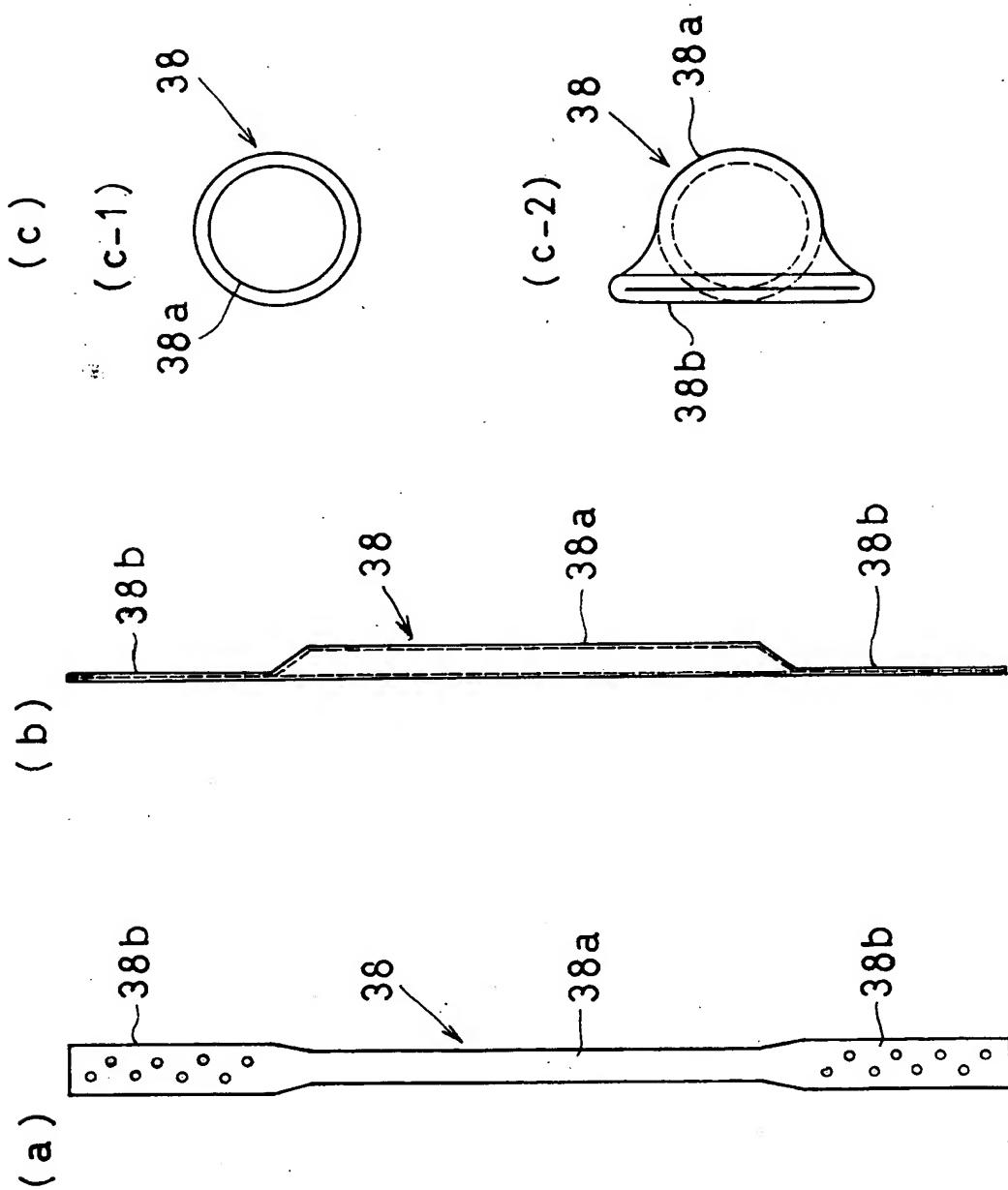
【図3】



【図4】

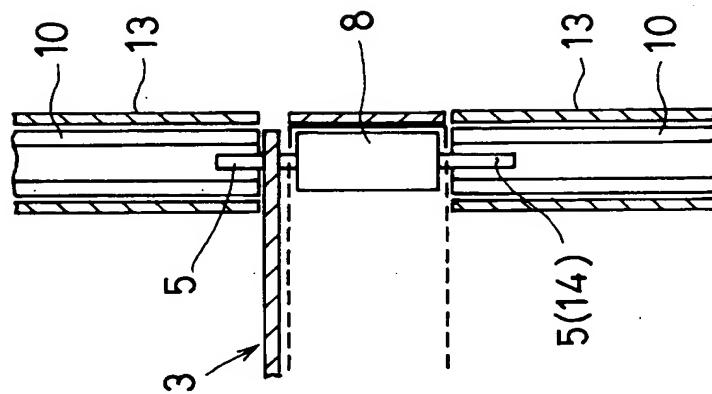


【図5】

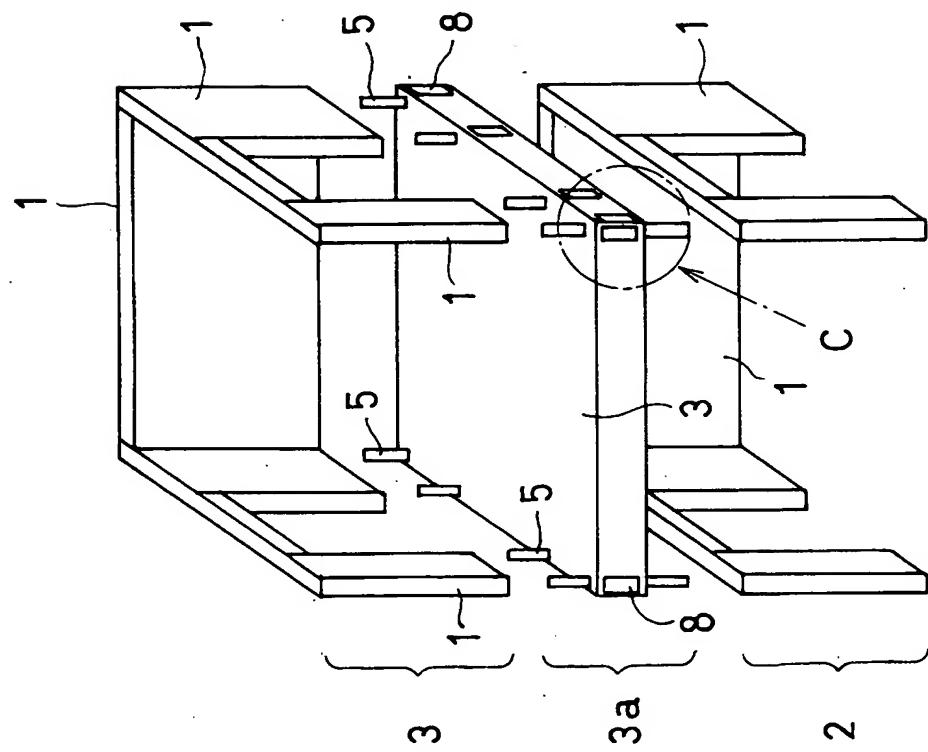


【図6】

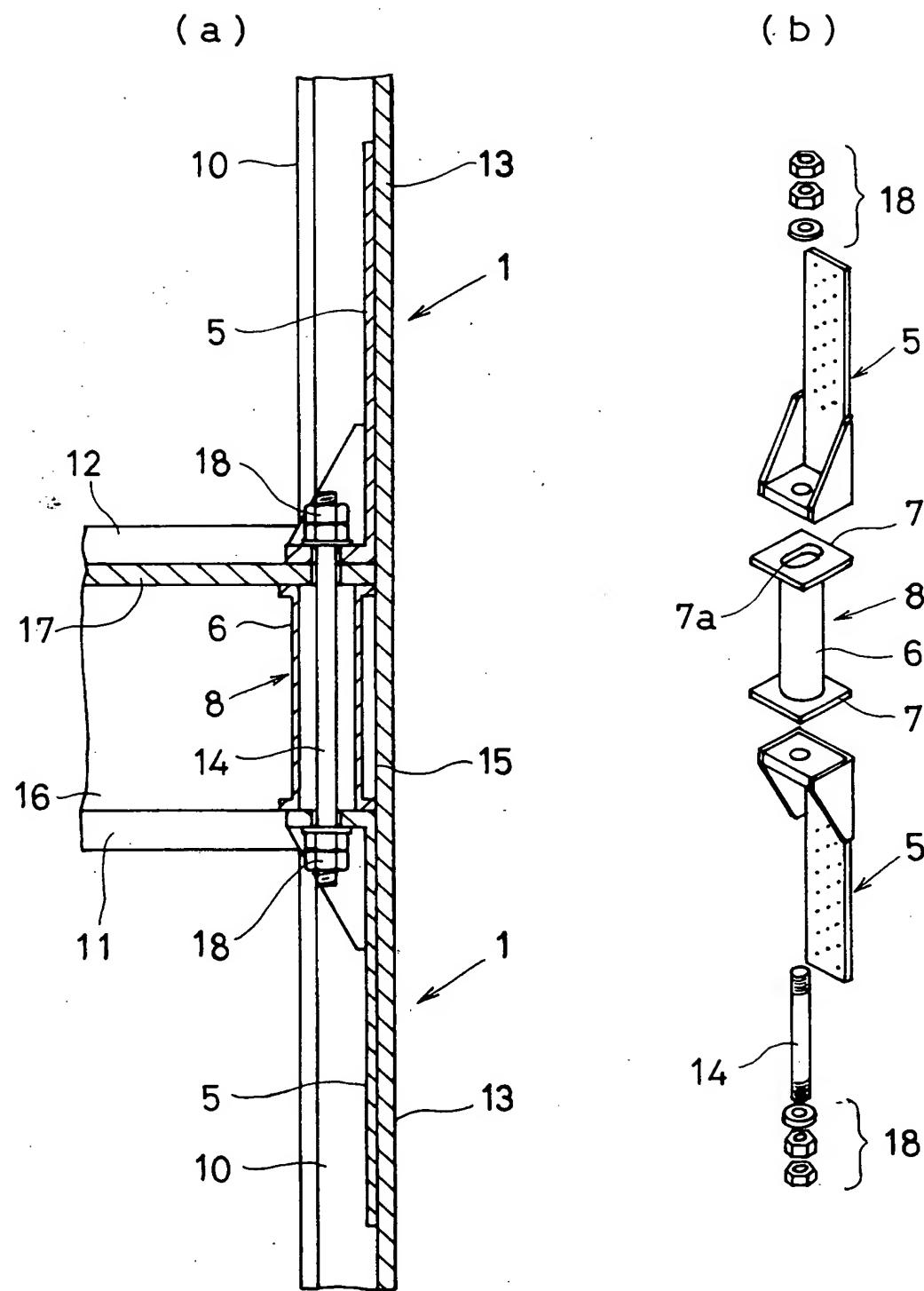
(b)



(a)



【図7】



【書類名】要約書

【要約】

【課題】 プラットフォーム構法でスチールハウスを構築する場合の欠点である、補強金物等が必要となるため構造が複雑化するという欠点を解消し、しかも、該構法の長所である壁パネル使用による施工の容易性を維持できること。

【解決手段】 壁フレームに面材を張設してなる壁パネル21を、矩形の4辺に沿って配設して1階壁22を構成し、4辺に配設される壁パネル21のうち、対向する2辺の壁パネル21aの上端縁を、対向する他の2辺の壁パネル21aの上端縁よりも一段低く設け、対向する一段低い2辺に配置される壁パネル21aの上端縁に床パネル24の両端部を乗せて支持し、床パネル24の両側部を対向する2辺の下階の壁パネル21aにおける内側の上端に接続させ、対向する1段高い壁パネル21aの上下の端縁を突き合わせて接続させたことを特徴とする。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2004-340130
受付番号	50402007449
書類名	特許願
担当官	第二担当上席 0091
作成日	平成16年11月26日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成16年11月25日
-------	-------------

特願 2004-340130

出願人履歴情報

識別番号 [00006655]

1. 変更年月日 1990年 8月10日

[変更理由] 新規登録

住所 東京都千代田区大手町2丁目6番3号
氏名 新日本製鐵株式会社